ネパールで行われた、家畜を「ギフト」として次の家族へ受け渡す儀式。「Pass on the Gift」は、ヘファーの根幹となるコンセプトだ。

持続可能な援助の輪によって、
飢餓と貧困を解決する。

飢餓を救うのは、ミルクではなく牛。

アメリカのNPO「Heifer International（ヘファー・インターナショナル）」は、
単に食料を提供するのではなく、食料源となる家畜を与えて育ててもらうことによって、
飢餓をなくす取り組みを行っている。
スローガンは「ミルクではなく牛を」。ヘファーのユニークな活動を紹介しよう。

photographs by Heifer　text by Makiko Kojima

building tomorrow together!
special issue

上／船乗りのジョージ・クレイグさんと、船に積み込まれたインディアナからやって来たヤギ。下／ブレザレン教会から雌牛を受け取ったギリシア人一家。（1947年頃）

「ヘファー」の誕生。

ヘファーの生みの親は、アメリカ・インディアナ州の農家であったダン・ウェストさん。1937年に、ブレザレン教会のボランティアとして、スペイン内戦で傷ついた人々を助けていた。

彼は貧しい難民たちにミルクを配っていたのだが、ミルクは飲んでしまったら終わりだということに気づいた。ウェストさんは、貧しい人々には、急場のしのぎとして食料を与えるのではなく、食料源を提供するべきだと考えた。さらに、恩恵を受けた家族は、それをほかの家族へ与える。そうすれば「贈り物」はずっと受け継がれていく。そのような構

「ヤギのおじさん」ハーバート・ニコルソン

ヘファーと日本のつながりは古く、そして深い。キーパーソンは、
太平洋戦争中にアメリカ在住の日系人を助けるために尽力したハーバート・ニコルソンさんだ。
「Heifer International」の前身である「Heifers for Relief」の責任者となったニコルソンさんは、
牛乳が著しく不足していた日本にヤギを送ることを提案し、アメリカ国内で寄付を募って200頭のヤギを購入した。
そして1947年に、息子と共にヤギを船で沖縄まで運んだ。沖縄からアメリカに戻ったニコルソンさんは、
再びヤギを買い求め、1948年に、今度は265頭のヤギを連れて横浜に入港。日本側から熱烈な歓迎を受けた。
このニコルソンさんの話を脚色した物語が、1953年に発刊された小学校5年生の国語の教科書に載り、
ニコルソンさんは「ヤギのおじさん」として知られるようになった。
ヘファーは、日本にも大きな影響を及ぼしていたのだ。

❶コミュニティガーデンで収穫するヘファーのユースメンバー。（アメリカ）❷アヒルの世話をする少女。（中国）❸蜂を飼育することで、ハチミツという収入源を得た女性。（アルメニア）❹コンテストで優勝した子牛は、親子の自慢。（アメリカ）❺ラクダによって荷物の運搬や病院通いが楽になったと喜ぶ人々。（タンザニア）❻ロバは、村の女性たちを40リットルもの水を運ぶという重労働から解放した。（タンザニア）❼ヘファーのヤギで貧困を改善できた家族。（ハイチ）❽タルー族の女性と水牛。（ネパール）❾アルパカの毛を紡ぐ女性。（ペルー）❿初めて自分の羊を手に入れたというネイティブ・アメリカンの少女。（アメリカ）⓫タイとの国境紛争で被害を受けた養豚業の再建をサポート。（カンボジア）⓬鶏が産んだ卵に喜ぶ少女たち。（グルジア）⓭馬は、耕作などさまざまな用途で役に立つ。（ウクライナ）⓮高原地方の貧しい村に、ウサギやアルパカ、苗木が贈られた。（エクアドル）

想を、ウェストさんは描いたのだ。

アメリカに戻ったウェストさんは、「Heifers for Relief」という団体を設立した。「Heifer（ヘファー）」とは、「（まだ子を産んでいない）若い雌牛」のこと。団体名のとおり、ヘファーは、飢餓や貧困で苦しむ人々に雌牛を提供する活動を展開していった。最初に雌牛が送られたのはプエルトリコで、それは1944年のことだった。

第二次世界大戦が終結すると、ヘファーは、戦争で家畜を失ったヨーロッパの農民たちの援助に乗り出した。1947年にはヤギを日本に（59ページ「ヤギのおじさん」参照）、1948年には豚をエクアドルに送った。以降、ヘファーは世界中の国々にさまざまな家畜を送り、貧しい人々をサポートしてきた。今では、牛やヤギ、豚に加え、鶏、馬、羊、七面鳥、ロバ、アヒルなど、ヘファーが提供する家畜は28種に上る。

援助の輪が広がるしくみ。

ヘファーがユニークなのは、単に食料を与えるのではなく、食料源となる家畜を提供することで、飢餓という問題の解決に取り組んでいる点である。

牛や鶏などの家畜を受け取った家族は、家畜の飼育方法や環境保全について教わる。家畜たちの生産性を高め、その子孫もずっと同じ土地で健やかに生きていくことができるようにするためだ。また、家族はミルクや卵から栄養を摂取できるだけでなく、それらを販売することで収入も得られる。

さらに、家畜を受け取った家族は、その家畜が最初に産んだメスの子どもを、別の家族にあげなければならない。その際には、飼育方法も指導することになっている。その家族がまた別の家族を助け、援助の輪はどんどん広がっていく……。これが、ヘファーの第1の基本コンセプトである「Pass on the Gift」だ（61ページ「ヘファーの12の基本コンセプト」参照）。

このしくみによって、かつては援助を受ける側だった家族に、他の人々を助けることで、自尊心が生まれる。こうして自立した生活ができる家族が増えれば、コミュニティは持続可能な発展を遂げていくのだ。

ヘファーの展開と可能性。

ヘファーはこの家畜プロジェクトのほかにも、さまざまな世界的な取り組み（イニシアティブ）を行っている。アフガニスタン、コソボ、グ

恩恵を分かち合い、他人を思いやることで、希望と尊厳の輪が世界中に広がっていく。

アテマラなどの紛争地で展開している「平和イニシアティブ」、男性と女性が対等なパートナーであることを訴える「男女平等イニシアティブ」、コミュニティの環境保全についての教育を行う「自然農業イニシアティブ」などだ。

メインである家畜プロジェクトを含むさまざまな活動が評価され、ヘファーは何度も表彰されている。また、メディアの影響もあり、ヘファーは今や世界中で知られている。

これまで、ヘファーは世界各国で1200万以上の家族に援助を行ってきた。ヘファーの「贈り物を次へつないでいく」しくみによって、これからもさらに多くの人々が恩恵を受けることだろう。

ヘファーの12の基本コンセプト

【恩恵を受けた家族は、今度は別の家族を助ける】 ヘファーから家畜などの「ギフト」を受け取った家族は、それらを何らかの形で困っているほかの家族に与えることになっている。

【アカウンタビリティ（説明責任）】 ヘファーとサポート先のコミュニティは、どのように共通の目標を達成するかについて、互いに説明する責任がある。

【分かち合いと思いやり】 もしだれもが資源を分かち合うように努力し、思いやりをもって他人に接するようになれば、地球規模の問題を解決することができる。

【自立と持続可能な成長】 ヘファーの目標は、援助している家族が自立し、ヘファーの援助が終わってからも、自分たちの力で豊かな生活を送り続けることである。

【家畜のよりよい管理方法】 ヘファーのプロジェクトに参加する者は、自分たちの家畜を安全な環境で健康的に飼育し、生産性を上げるための方法を学ぶ。

【栄養と収入】 ヘファーから家畜などの「ギフト」を受け取った家族は、牛乳、卵、チーズなどの製品を消費または販売することで、栄養を摂取することができ、利益を得られる。

【真の困窮に対する公正性】 ヘファーは、最も困窮している人々に優先的に家畜を与え、トレーニングを行うことを保証している。

【環境の改善】 持続可能な農業技術や森林再生、バイオガス利用などを通じた環境の改善は、ヘファーのプロジェクトの根幹となるものである。

【メンバー全員の関与】 ヘファーのプロジェクトには、全メンバーが参加することになっている。草の根レベルのリーダーは、全参加者を意思決定に関与させなければならない。

【トレーニングと教育】 家畜たちがきちんとした世話を受けられるようにし、プロジェクト参加者が確実に自立できるようにするためには、トレーニングと教育がカギである。

【スピリチュアリティ（精神性）】 価値観や人生の意義について考えるときに見られる「精神性」は、地球とのつながりや、未来に対する共通ビジョンをも表している。

【ジェンダーとファミリー】 ヘファーは、意思決定においても、家畜やトレーニングがもたらす恩恵に関しても、女性と男性が共に責任を担うことを後押ししている。

NPO & NGO 018 To Make You Glow

コミュニティが平和に共存し、
資源を分かち合える世界を目指して。

Heifer International（ヘファー・インターナショナル） | アメリカ

飢餓と貧困の撲滅を目的として1944年に設立されたNPO。食料源となる家畜や植物の種を提供したり、環境保全型の農業を指導したりすることで、世界125か国以上で1350万もの人々を助けてきた。現在、アメリカを含む50か国以上に拠点がある。

http://www.heifer.org/

⓯女性グループに教育とトレーニングを行っている様子。（インド）⓰植林プロジェクトに参加する村人たち。（ペルー）⓱ヘファーのトレーニングを受ける男性たち。（モザンビーク）⓲家畜への予防接種の方法を教えるヘファーのスタッフ。（ニカラグア）⓳ヘファーから贈られた家畜は、畑を耕すのにも役立っている。（ペルー）⓴家畜小屋の屋根を仕上げている一家。（インド）